

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年5月26日記入

基本目標	I ▼ 学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	18130
政策名 (章)	第8章 国際平和と人権が尊重される社会を実現します	評価担当課	企画部 ▼
基本施策名 (節名)	第1節 世界とともに生きる地域社会の実現		文化国際課
施策名	国際化の推進	課長名	大房 薫

1 施策の概要・目的

近年の国際化に伴い市内在住の外国人が急増する中で、市民一人ひとりが従来の地域的な視野だけでなく、常に国際社会の一員という自覚のもとでグローバルな視点に立って判断し、お互いの違いを認め「共に生きる」社会の実現するため、国際化や国際理解を一層図る取り組みを進めています。

2 施策の現状

住みよいまちづくりを推進するため、外国人懇話会の開催などにより意見を把握するとともに、暮らしのガイドブックの外国語版の発行などにより様々な外国人支援策を行っています。
また、パートナーシップ推進指針の精神のもと市民ボランティアとの連携により、外国人の支援活動を行っている国際交流ラウンジの運営を行っています。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

29,322 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

48 円/人……人口は、61.6 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 101 番目です。

(4) 施策に要している人員

1.00 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	暮らしのガイドブック(外国語版) ・7言語 (英語、中国、スベ、ポル、タイ、カン、韓・朝) ・改訂のサイクル(現在5年毎)	発行、内容の改訂状況がわかる	2 言語 単位	0 50 100	22	目標年度
			2 言語 単位		100%	達成度
指標2	国際交流ラウンジの年間利用者数の伸び率 今年度利用者÷昨年度利用者×100 ≥100%	活動状況の一面が把握できる	102.2 % 単位	0 50 100	22	目標年度
			100以上 % 単位		100%	達成度
指標3	外国人懇話会の開催開催件数 ・今年度開催件数	開催の状況が把握できる	1 回 単位	0 50 100	22	目標年度
			1 回 単位		100%	達成度

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

急増する在住外国人に対し関係各課が必要な事業を行うとともに、国際交流ラウンジを中心とした外国人支援のボランティアとの連携のもと、外国人に対するきめ細かなサービスや国際化に関する各種事業を行っていることから、市民ニーズとも合致し、行政需要の変化にも対応できていると判断されます。

6 有効性…期待される効果があがっているか

行政が担う外国人に関する支援活動について、通訳ボランティアの派遣、災害時の防災協定の締結、小中学校の国際理解教室へのボランティアの派遣など数々の連携が行われ、様々な角度から国際化に対する取り組みが進められている。
また、国際化の拠点として、国際交流ラウンジを毎年外国人をはじめとする多くの市民が利用し、市民ボランティアにより様々な交流・支援・情報提供活動が展開されていることなどから十分な効果が上がっていると判断されます。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

国際交流ラウンジは、平成8年10月の開館以来、ボランティアとの協働により外国人に対し様々な取り組みを行っている。その意味で費用対効果は優れていると判断される。さらにこのような取り組みの輪を広げて行くこととしたい。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

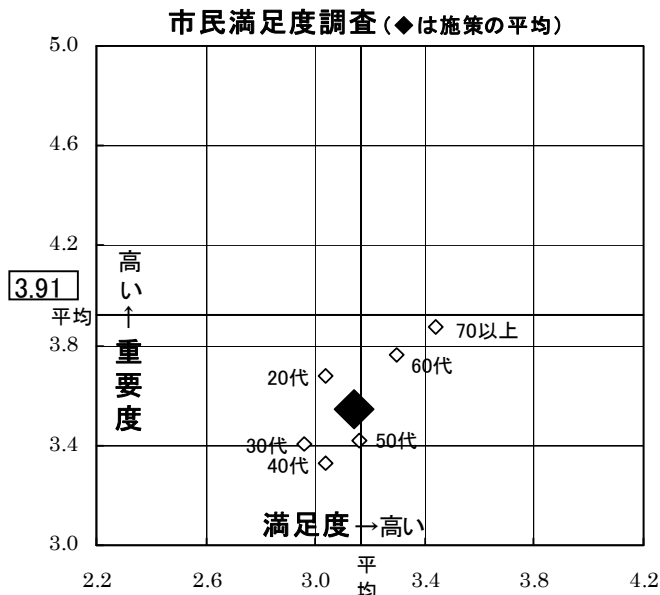
◆この施策の満足度は、3.143で、調査した51施策の中で28番目です。

◆この施策の重要度は、3.545で、調査した51施策の中で45番目です。

◆この施策の改善要望度は、0.285で、調査した51施策の中で42番目です。

◇年齢別にみると、満足度及び重要度ともに60歳代以上で高く、30歳代及び40歳代で低くなっています。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)



9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

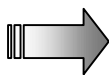
内なる国際化をさらに推進するため、市長と在住外国人が語る外国人懇話会の結果を参考にするなど、各課においてさらに外国人の立場に立った取り組みが必要があります。

一方、国際交流ラウンジなどを中心とする市民ボランティアとの関係については、行政とボランティアの役割を見極め、ボランティア独自性を尊重しつつ活動の輪が広がるよう支援していく必要があります。

また、こうした取り組みがまだ十分に知られていないことから、支援を必要とする外国人をはじめ市民に十分に周知する必要があります。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

外国人懇話会の結果などにより、行政の外国人に対する取り組みはまだ必要と認識しています。パートナーシップ推進指針のもと、行政と市民ボランティア協力し合いながら、さらに外国人が住みよいまちづくりを進めてゆく施策展開が必要です。

11 2次評価

説明
<input checked="" type="checkbox"/> A
<input type="checkbox"/> B
<input type="checkbox"/> C

本市の外国人登録数は増加傾向にあり、在住外国人のための行政サービスを更に充実させること。また、民間ボランティアとの協力を更に推進すること。

12 外部意見

説明
市民とのパートナーシップを踏まえた民間レベルでの交流等を通じ、国際化への認識と対応を図る必要がある。

